



セクシュアルマイノリティ学生への 配慮・対応ガイド



○ 目次 ○

1. はじめに
2. 学生からの相談・報告内容
3. 性を構成する要素（用語解説）
4. 配慮・対応の基本／対応例
5. 当事者学生の声／相談窓口

発行・問合せ先

早稲田大学ダイバーシティ推進室

E-mail diversity@list.waseda.jp

Web <https://www.waseda.jp/inst/diversity/>



1. はじめに

早稲田大学では2017年7月「早稲田大学ダイバーシティ推進宣言」を公表し、「本学の構成員の誰もが、尊厳と多様な価値観や生き方を尊重され、各自の個性と能力を十分に発揮できる環境」づくりに努めています。

しかしながら、ジェンダーやセクシュアリティに関する誤解や偏見、基本的な知識がないといった状況から、苦痛や困難を感じ、生きづらさを感じている学生が依然としていることも事実です。

このような状況を踏まえ、ダイバーシティ推進室は、教職員向けに「セクシュアルマイノリティ学生への配慮・対応ガイド」を発行し、全教職員へ配付しております。

多様な学生が不安を感じることなく、安心・安全な環境で大学生活を送ることができるよう、ぜひ本ガイドをご活用ください。



2. 学生からの相談・報告内容

これまでにGSセンターに学生から相談のあった内容をご紹介します。

※匿名性確保のため、一部相談内容を改編しています。

グループ分けて、

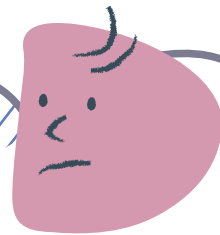
「男女が均等になるように」

と言われた。



**「まさか、ここにはいない
と思いますが…」**

と、その場に
セクシュアルマイノリティ当事者が
いないことを
前提として話された。



授業で

「そこの、後ろの男性」

と性別を決めつけて
呼ばれた。



合宿の時に、

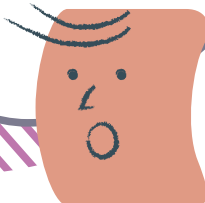
事前に希望を聞かれないまま、
男女の部屋割りがされていた。



ゼミのメンバーが

「ホモ」「レス」

といった言葉を使っていたが、
教員から注意がなかった。



相談内容は当事者や理解者・支援者(Ally)に限らず、多様な学生からあります。

3. 性を構成する要素（用語解説）

性的指向（Sexual Orientation）

ある人の恋愛・性愛の感情がどのような対象に向けられるのか

Lesbian [レズビアン]

女性もしくはそれに近いアイデンティティをもっていて、ほかの女性に魅力を感じる人やその状態。

Gay [ゲイ]

男性もしくはそれに近いアイデンティティをもっていて、ほかの男性に魅力を感じる人やその状態。

Bisexual [バイセクシュアル]

2つ以上のジェンダーに魅力を感じる人やその状態。

Heterosexual [ヘテロセクシュアル]

自分と異なる性の人に魅力を感じる人やその状態。

Questioning [クエスチョニング]

自分の性のあり方が不確かな人、もしくはそれを問い直している状態。

「性的指向（Sexual Orientation）」と「性自認（Gender Identity）」の頭文字をとって、「**SOGI**」と

身体的性（Physical Sex）

生まれ持った体に関する性の特徴や、第二性徴によって特徴づけられる生物学的な性

恋愛感情を抱く性別と性的魅力を感じる性別が異なる場合もあります。

LGBTQ +

LGBTQ+は、Lesbian [レズビアン]、Gay [ゲイ]、Bisexual [バイセクシュアル]、Transgender [トランスジェンダー]、Queer [クィア]とQuestioning [クエスチョニング]の頭文字と、それ以外の規範に沿わない様々な性のあり方を「+」で表現した言葉。「LGBTQIA+」「LGBTQs」などと表記されることもあります。また「性的マイノリティ」と同義で使用されることもあります。

ALLY（アライ）

英語で仲間や味方、支援者、同盟を意味し、LGBTQ+の人たちやその活動を支持し積極的に支援する仲間のことを表します。

個人の性のあり方はいくつかの要素の組み合わせによって、かたちづけられていると考えられています。それぞれの要素自体が多様であり、その組み合わせも多様であるため、そのあり方は人それぞれ異なります。ここではいくつかの要素を紹介します。

性自認 (Gender Identity)

ある人が自身のジェンダーをどのように認識しているか

Transgender

〔トランスジェンダー〕

生まれた時に割り当てられた性別（戸籍の表記など）と性自認が異なる人。トランスジェンダーで性自認が女性の人を「トランス女性」、男性の人を「トランス男性」という。

Cisgender

〔シスジェンダー〕

生まれた時に割り当てられた性別と性自認が一致している人。シスジェンダーで性自認が女性の人を「シスジェンダー女性」、男性の人を「シスジェンダー男性」という。

Xジェンダー

〔エックスジェンダー〕

自身のジェンダーを男女の中間（中性）、性別がない（無性）、男でも女でもある（両性）あるいはその間で流動性がある（不定性）と認識している人など。日本で生まれた呼称。

Non-Binary

〔ノンバイナリー〕

男女二元論から離れ、男性、女性のいずれでもない性自認を持つ人の総称。

Queer [クィア]

性に関する社会規範に従わないあり方。
LGBTQ+の総称として使われることもある。

言われます（ソジ、ソギと読む）。性のあり方を包括的に捉える考え方として広く用いられています。

性別表現 (Gender Expression)

ある人が社会生活の中で自身のジェンダーを表現する、行動、服装、化粧、髪型、言葉遣いなど

※性別表現と性自認は異なる要素です。このことから、見た目から性のあり方を判断することはできません

カミングアウト

自らの性のあり方を自分の意思で他者につたえること。
※必ずしも不特定多数の人に開示することを意味しません。

アウティング

本人の同意なしに、その人の性自認・性的指向・身体的性など、またそれらを特定し得る情報を暴露する行為。

STOP!

アウティングは、当事者との信頼関係を壊し、本人の居場所を奪い、最悪の場合、**生命**にかかわる事例につながりかねない重大な人権侵害です。

4. 配慮・対応の基本／対応例

1

その場にセクシュアルマイノリティ学生がいることを前提として接する。

事例 1 「まさか、ここにはいないと思いますが」と、
その場にセクシュアルマイノリティ当事者がいないことを前提として話された。



セクシュアルマイノリティ学生の存在を否定するような発言はお控えください。

- ・セクシュアルマイノリティ学生かどうかは外見で判断されるものではありません。
- ・性別二元論、異性愛などを前提として話すことも当事者の存在を否定する言動になりえます。

2

見た目や氏名でジェンダー・セクシュアリティを決めつけない。

3

学生に呼びかける場合は、
共通の（または本人の希望に沿った）敬称を使用する。

事例 2 「そのの、後ろの男性」と性別を決めつけて呼ばれた。



名前で呼ぶ、そばまで来て「あなた」と言う、服の色や柄を指すなど、性別でない呼び方で対応することができます。

- ・名前で呼ぶ場合は、共通の敬称（「～さん」が多い）を用いてください。
- ・外国語で行われる授業における学生の敬称、例えば Mx.、Mr. や Ms. や、they、he や she などの三人称については、メールや紙面アンケートにて、学生が教員にどう呼ばれたいかの希望を伝える機会を設けるなどの対応ができます。

事例 3 「男女が均等になるようにグループを作って」と言われ、
どうしたらいいかわからなかった。



「いろいろな考え方ができるようなグループを作ってください」
などと言い換えることができます。

事例 4 ゼミ合宿で希望も聞かれないまま、男女の部屋割りがなされた。

…▶ 事前に本人が希望を伝えることができる機会を設け、申し出があった場合は、どのようなことに問題を感じているのか本人と話し合いながら、具体的な配慮・対応の内容を決める必要があります。

・カミングアウトしている範囲など当事者が置かれている環境は各々異なるため、本人の意思を尊重した個別の対応が必要となります。

4

差別的なニュアンスを持つ言葉やジェスチャーは使わない。
学生にも使わないよう指導する。

事例 5 見た目や振る舞いがいわゆる「中性的」であったため、周囲から「オネエ」と言われた。
／ゼミのメンバーが「ホモ」「レズ」といった言葉を使っていたが、同席していた教員が注意をしなかった。

…▶ このような場面に同席した際には、性に関するステレオタイプを押し付けないこと、「ホモ」や「レズ」などといった言葉が侮辱となり得ることを指摘し、使用しないよう学生にご指導ください。

学生から相談を受けたら…

Step 1

「何に困っているか」「どのようにしていきたいか」を確認する。

Step 2

丁寧に対応したいと考えていることを伝える。

Step 3

相談に関する情報をどこまで共有してよいか確認・承諾をとる。

学生からの相談にあたって、不明な点等がありましたら、GSセンターにご連絡ください。専門の職員が対応いたします。



≡ 大学生生活が過ごしやすくなった ≡

5. 当事者学生の声

教員にカミングアウトしたとき、しっかりと個人情報として守ってくれたので安心できた。

語学授業の初回に、学生に対して使ってほしい呼称や人称代名詞を尋ねるアンケートを実施してもらえたため、安心して授業に臨むことができた。

トランスジェンダーの学生としてゼミ合宿への参加に不安があったが、部屋割りや入浴について教員に相談したところ、関係箇所とも連携・配慮してもらい、安心して合宿に臨むことができた。

キャリア相談の際、担当の方がアライ(ALLY)であることを伝えてくれたので、安心して相談できた。

トランスジェンダー学生の受け入れの体制が教育実習先にあるか分からず悩んでいたが、教員や職員のサポートにより普段生活している性別で実習に臨むことができた。

ジェンダーやセクシュアリティの問題を扱う授業ではなかったが、教員が適切な知識をもっていることが話から伝わり嬉しかった。

ゼミの飲み会で、学生同士が「ホモネタ」で盛り上がっていたことに気づいた教員が注意をしてくれたおかげで、飲み会に楽しく参加できた。

相談窓口

■ GSセンター (10号館2階)

- GSセンターでは専門の職員が、ジェンダーやセクシュアリティに関する相談に対応しています。学生本人からの相談はもちろん、学生を指導している教職員からの相談も受けております。

開室時間 月-金 10:00 ~ 16:00

E-mail gscenter@list.waseda.jp

Web <https://www.waseda.jp/inst/gscenter/>



■ 保健センター学生相談室 (25-2号館6階)

- 学生生活上のどんな悩みにも応じています。

時間 月-金 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00

TEL 03-3203-4449【予約優先】

Web <https://www.waseda.jp/inst/hsc/information/counseling>



■ コンプライアンス推進室 (ハラスメント防止委員会事務局)

- ハラスメントに関する相談に応じています。相談は匿名でも可能です。【要予約】

時間 9:30 ~ 17:00 (土日祝日、大学休業日を除く)

E-mail compliance@list.waseda.jp

Web <https://www.waseda.jp/inst/harassment/>



コンプライアンス相談窓口は学外のものも利用が可能です

学外 委託先 NEC VALWAY 株式会社

時間 平日 8:30 ~ 19:00
土 8:30 ~ 17:00

フリーダイヤル 0120-123-393

※英語・中国語対応可能

Web <https://koueki-tsuhou.com/WFcXVtaEFdCd/>

